

番 号	20請願第3号 (厚生付託)
受理年月日	平成20年6月5日
件 名	食の安全確保のため、膨大な放射能を放出している青森県「六ヶ所再処理工場」の稼働の中止とその閉鎖を求める意見書の提出について
提 出 者	三鷹市在住 稲葉 純子 ほか 202人
紹 介 議 員	嶋崎 英治
要 旨	
<p>〔請願要旨〕</p> <p>食の安全は、すべてに優先すべき生活の基本です。</p> <p>青森県は、食糧自給率の低い日本の現状にあって、貴重な農・畜・海産物の供給源で、三鷹市民も消費者として大いにその恩恵に浴しています。また、同県は三鷹市にとって、文化活動の一テーマである太宰 治の故郷であり、多くの市民が親近感を抱いています。</p> <p>日本原燃株式会社「六ヶ所再処理工場」は、2006年3月31日、本格稼働と変わらないアクティブ試験を開始しました。同工場は150メートルの主排気筒と3キロメートル沖の放流口から、原発1基が放出する1年分の半減期の長いものを含む放射能を1日で排出しなければ稼働できません。2007年10月12日の直近四半期の周辺空間放射能と農水産物の放射能濃度のデータ公表時には、工場に近い尾駈（おぶち）沼でトリチウムが検出されたと発表しています。県や企業が公表した「（放射能は）大気や海水で薄まるから大丈夫」との見解は、錯誤も甚だしく、気象上、気流・潮流・降雨・降雪により陸地にも戻され、農地と海域を汚染し続け蓄積します。</p> <p>2006年2月、青森県は再処理が行われれば、同県産食料から放射能が出ることを数値を示し認める一方で、その直後、県知事みずからにより東京の百貨店で、「安心安全で高品質な青森県産品」とうたう売り込み活動がなされました。</p> <p>私たちは、生産者が手塩にかけたリンゴ・長芋・ニンニク・ホタテなどを、本当に安心して購入し食べたいのです。食料の宝庫・青森を再処理による放射能から守ることは、三鷹市民及び全国民の食を守ることに繋がります。よって、下記の通り、請願します。</p>	

記

貴議会におかれましては、三鷹市民の食の安全を確保するため、膨大な放射能を放出している青森県「六ヶ所再処理工場」の稼働を一刻も早くとめ、閉鎖することを求める意見書を、内閣総理大臣及び経済産業大臣に提出すること。